

# 「闘う土地改良」終わらない

「闘う土地改良」は終わらない——。自民党の二階俊博幹事長率いる全国土地改良事業団体連合会（全土連）は13日、東京・平河町の砂防会館で「農業農村整備の集い」を開き、2019年度の土地改良予算の獲得と、来夏の参院選への組織内候補の擁立に向けて氣勢を上げた。

「闘う土地改良は際限なく続く」

二階氏は集会でこう言い切

## 予算獲得へ 氣勢上げる

全土連

「慢しているんじゃない」と強調。「まだ農業農村の発展のためにはやらなきゃいけないことは、たくさんある。われわれが先頭に立たなきゃ駄目だ」とハツパを掛けた。

二階氏が、一層の予算増額に並々ならぬ意欲を燃やすのは、全土連が来夏の参院選に元農水官僚の宮崎雅夫氏の擁立を決めているためだ。

った。15年に全土連会長に就任以来、「闘う土地改良」を掲げて予算確保に豪腕を振るってきた。18年度当初予算と

17年度補正予算を合わせて5800億円もの予算を獲得し、民主党政権下で大幅に削減される前の水準に戻した。

だが、二階氏は土地改良法改正に触れながら「この節目の年を実りあるものとするには闘う土地改良だ。われわれはこれ（予算回復）だけで我

この日は、16年参院選で同じく組織内候補として初当選を果たした進藤金日子氏が登壇。農業を下支えする土地改良事業をアヒルの水かきに例え「水かきは二つなければいけない」と訴えると、宮崎氏が「皆さまの期待に応えて水かき候補ではなく、しっかり水かきになれるように頑張りたい」と応じ、笑いを誘った。

集いでは、斎藤健農相が「闘う土地改良の皆さんと一緒に闘っていく」と表明。自民党の竹下亘総務会長、塩谷立選挙対策委員長、森山裕国会対策委員長、西川公也内閣官房参与、公明党の井上義久幹事長、石田祝稔総政調会長ら与党幹部や閣僚経験者が勢ぞろいし、口々に連携を誓った。